

## 観光地域づくり法人形成・確立計画

1. 観光地域づくり法人  
の組織

申請区分	広域連携DMO・ <u>地域連携DMO</u> ・地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 熊本県：阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村、山都町 大分県：竹田市 宮崎県：高千穂町	
所在地	熊本県阿蘇市一の宮町宮地4607-1	
設立時期	1990年5月30日（2013年4月、財団法人から公益財団法人へ移行）	
職員数	6人	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	高橋 周二 （公財）阿蘇地域振興デザインセンター一理事長	（公財）阿蘇地域振興デザインセンター一理事長。行政、事業者、地域、学術機関との様々な繋ぎ役を担っている。熊本県阿蘇郡南小国町の町長。
各種データの分析・収集等（マーケティング）の責任者（専門人材） ※必ず記入すること 事務局長 マーケティング責任者（CMO） 財務責任者（CFO）	（専従） 江藤 訓重	九州ツーリズム大学（熊本県小国町）の事務局長として日本型ツーリズムの人材育成に取り組む。また、福岡県八女市観光開発事業委員会の観光部会の座長として「茶のくに八女」の創設や熊本県高森町の観光立町推進に取り組み、現在同推進会議の会長の任に当たる。その他、熊本大学の非常勤講師やくまもとツーリズムコンソーシアム会長、長崎県の観光アドバイザーなどを歴任し現在に至る。
事務局員（企画担当）	興梠 宏幸 （山都町）	平成26年度から山都町の山の都創造課にて観光地域づくり、文化交流拠点施設「山都文化の森」の建設に携わる。 地元の東竹原地区では地域ブランドである南郷檜やみさを大豆を振興するイベントを企画する。 2020年山都町から（公財）阿蘇地域振興デザインセンターに派遣され、観光圏整備事業等の企画担当。



(別添) 様式 1

<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○熊本県 阿蘇市 経済部観光課（観光振興） 経済部まちづくり課（地域づくり・環境整備・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○熊本県阿蘇郡 南小国町 まちづくり課（観光振興・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○熊本県阿蘇郡 小国町 情報課（観光振興・商店街関係者との協議） 政策課（地域づくり団体等との調整・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○熊本県阿蘇郡 産山村 企画振興課（観光振興・地域づくり団体等との協議・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○熊本県阿蘇郡 高森町 政策推進課（観光振興・地域づくり団体等との協議・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○熊本県阿蘇郡 南阿蘇村 産業観光課（観光振興・地域づくり団体等との協議・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○熊本県阿蘇郡 西原村 企画商工課（観光振興・地域づくり団体等との協議・移住定住） 産業課（グリーンツーリズム）</li><li>○熊本県上益城郡 山都町 山の都創造課（観光振興・地域づくり団体等との協議・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○大分県 竹田市 商工観光課（観光振興・地域づくり団体等との協議・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○宮崎県西臼杵郡 高千穂町 企画観光課（観光振興・地域づくり団体等との協議・移住定住・グリーンツーリズム）</li><li>○熊本県 企画振興部（地域づくり団体等との協議・移住定住） 商工観光労働部（観光振興） 阿蘇地域振興局総務振興課（観光振興・地域づくり団体等との協議・移住定住）</li><li>○大分県 企画振興部（観光振興） 豊肥振興局地域振興部（地域振興・観光振興）</li><li>○宮崎県 商工労働部（観光振興） 西臼杵支庁総務課（観光振興・地域振興）</li></ul>
-----------------------------	---

(別添) 様式 1

連携する事業者名及び役割	<p>○観光振興事業者（観光協会、DMO）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・阿蘇市観光協会</li><li>・南小国町観光協会</li><li>・ASOおぐに観光協会</li><li>・産山村観光協会</li><li>・高森町観光協会</li><li>・（一社）みなみあそ観光局</li><li>・（一社）山都町観光協会</li><li>・NPO法人 竹田市観光ツーリズム協会</li><li>・（一社）高千穂町観光協会</li><li>・（株）くまもとDMC</li><li>・（一社）西原村観光協会</li><li>・阿蘇広域観光連盟（AATA）</li><li>・株式会社SMO南小国</li></ul> <p>○宿泊事業者</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・阿蘇温泉観光旅館協同組合（阿蘇市）</li><li>・黒川温泉観光旅館協同組合（南小国町）</li><li>・杖立温泉観光旅館協同組合（小国町）</li><li>・わいた温泉組合（小国町）</li><li>・南阿蘇村温泉旅館組合（南阿蘇村）</li><li>・長湯温泉旅館組合（竹田市）</li><li>・高千穂町旅館業組合（高千穂町）</li></ul> <p>○交通事業者</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全日本空輸（株）熊本支店</li><li>・日本航空（株）熊本支店</li><li>・熊本空港ビルディング(株)</li><li>・九州旅客鉄道（株）</li><li>・南阿蘇鉄道（株）</li><li>・産交バス（株）阿蘇事業部</li><li>・九州産交ツーリズム（株）</li><li>・大野竹田バス（株）</li><li>・宮崎交通（株）</li><li>・日田バス（株）</li></ul> <p>○観光施設事業者</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・阿蘇カドリー・ドミニオン</li><li>・阿蘇ファームランド</li><li>・阿蘇火山博物館</li><li>・らくのうマザーズ阿蘇ミルク牧場</li><li>・阿蘇お猿の里 阿蘇猿まわし劇場</li><li>・くじゅう花公園</li></ul> <p>○商工農林事業者</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・阿蘇市商工会</li><li>・南小国町商工会</li><li>・小国町商工会</li><li>・産山村商工会</li><li>・高森町商工会</li><li>・西原村商工会</li><li>・南阿蘇村商工会</li><li>・山都町商工会</li><li>・竹田市商工会議所</li></ul>
--------------	---

	<ul style="list-style-type: none"><li>・高千穂町商工会</li><li>・阿蘇青年会議所</li><li>・JA阿蘇</li><li>・阿蘇森林組合</li><li>・小国町森林組合</li><li>・竹田市森林組合</li><li>・西臼杵森林組合</li></ul> <p>○教育機関</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・熊本大学</li><li>・東海大学</li></ul> <p>○地域金融機関</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・肥後銀行</li><li>・熊本銀行</li></ul> <p>○公益法人など</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・(公財)阿蘇グリーンストック</li><li>・(公財)阿蘇火山博物館</li><li>・(一財)阿蘇テレワークセンター</li><li>・(一財)学びやの里</li><li>・(一社)TAKARA MORI</li><li>・NPO法人 押戸石の丘</li><li>・NPO法人 ASO 田園空間博物館</li><li>・NPO法人 九州バイオマスフォーラム</li><li>・NPO法人 阿蘇ミュージアム</li><li>・(株)まちづくり阿蘇一の宮</li></ul> <p>○道の駅</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・阿蘇 (ASO 田園空間博物館)</li><li>・波野 (神楽苑/阿蘇市)</li><li>・小国 (ゆうステーション/小国町)</li><li>・あそ望の郷くぎの (南阿蘇村)</li><li>・そよ風パーク (山都町)</li><li>・清和文楽邑 (山都町)</li><li>・通潤橋 (山都町)</li><li>・竹田 (竹田市)</li><li>・すごう (竹田市)</li><li>・ながゆ温泉 (竹田市)</li></ul> <p>○物産館など</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・四季彩いちのみや (阿蘇市)</li><li>・はな阿蘇美 (阿蘇市)</li><li>・ふれあい市場赤水 (阿蘇市)</li><li>・南小国町総合物産館 きよらカアサ (南小国町)</li><li>・(株)うぶやま (産山村)</li><li>・奥阿蘇物産館 (高森町)</li><li>・WATER FOREST (高森町)</li><li>・俵山交流館 萌の里 (西原村)</li><li>・里の駅 荻の里温泉 (竹田市)</li><li>・物産館ぴらみっと (小国町)</li></ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・阿蘇ジオパーク推進協議会</li><li>・阿蘇地域世界農業遺産推進協会</li><li>・阿蘇世界文化遺産推進協議会</li></ul>
--	--

(別添) 様式 1

	<ul style="list-style-type: none"><li>・阿蘇草原再生協議会</li><li>・阿蘇草原再生千年委員会</li><li>・国立公園満喫プロジェクト（環境省）</li><li>・祖母傾ユネスコエコパーク大分・宮崎推進協議会</li><li>・高千穂郷・椎葉山世界農業遺産推進協議会（高千穂町）</li><li>・阿蘇グリーンツーリズム協議会</li><li>・来ちよくれ竹田研究会</li><li>・高千穂ムラたび活性化協議会</li><li>・阿蘇エコツーリズム協会</li><li>・阿蘇ジオパークガイド協会</li><li>・阿蘇地域観光推進協議会</li></ul>
--	--

(別添) 様式 1

<p>官民・産業間・地域間との持続的な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件)</p> <p>(概要) 登録①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最高意思決定機関として、(公財)阿蘇地域振興デザインセンター理事会(理事会メンバーは管轄市町村の首長、県庁、町議会代表で構成している。)</li> <li>・同協議会の決定を推進するために、官民多様の関係者が参加する「阿蘇くじゅう高千穂地域デザイン会議」を設置。 (メンバーは行政、観光協会、観光業者、交通業者で構成している。)</li> <li>・同デザイン会議の活動を具体的に協議し、実務的な調整を行うワーキンググループ(観光地域づくりマネージャーや市町村担当者などを核として)を設置。</li> </ul> <p>※・観光協会連携WG</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次交通WG</li> <li>・食文化WG</li> <li>・インバウンド&amp;プロモーションWG</li> </ul>
	<p>The diagram illustrates the organizational structure of the design center. At the top is the <b>(公財)阿蘇地域振興デザインセンター 理事会 (最高意思決定機関)</b>. Below it is the <b>阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議 (多様な主体)</b>, which includes members from administration, tourism associations, transporters, hotels, private businesses, and universities, with approximately 5-6 executive members. This council oversees the <b>観光圏ワーキンググループ (阿蘇くじゅう観光圏の構成団体及び観光地域づくりマネージャー)</b>. This group is composed of four working groups: <b>観光協会連携WG</b>, <b>人材育成WG</b>, <b>食文化WG</b>, and <b>インバウンド&amp;プロモーションWG</b>. These groups are linked to a <b>連携</b> (collaboration) box. At the bottom, a box lists collaborative projects: <b>阿蘇エコツーリズム協会</b>, <b>阿蘇グリーンツーリズム協議会</b>, <b>九州3観光圏連携事業</b>, and <b>中九州DMO連携事業</b>.</p>

(別添) 様式 1

<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>観光地域づくりマネージャーの定例会開催 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議の開催（多様な主体による会議の開催） 観光地域づくりセミナーの開催（年2回）</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>（活動の概要） 公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターは、旧阿蘇郡12か町村と熊本県が基本財産を出捐し、平成2年に創設された機関が前身であり、基本財産の運用益を元に、地域全体が自律自興の精神を掲げ、恵まれた自然・景観との調和を図りながら魅力ある地域の振興を羽なる組織として事業を展開してきた。 地域振興、観光振興、環境・景観保全、情報発信等、幅広い取組を通じて、九州中央部に位置する熊本の宝である「阿蘇」を活性化させる実績は各方面から注目され、評価されている。</p> <p>【事業の3つの柱】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 豊かな自然による世界ブランドの確立</li> <li>② 地域の元気再生による地域力向上</li> <li>③ 広域連携による競争力のある地域づくり</li> </ol> <p><b>豊かな自然による世界ブランドの確立～阿蘇草原の維持・再生～</b></p> <p>ア) 草原再生PR事業 阿蘇草原再生千年委員会の設立や阿蘇草原再生募金の開始等により、阿蘇の草原を維持・再生する気運を醸成。新聞紙上などを通してのPR活動の支援。</p> <p>イ) 野焼き支援事業 阿蘇の草原を維持・再生する気運を醸成。地元小学生の草原環境・体験学習や草原ボランティアリズムなどの普及・啓発活動に係る事業を執り行うために財源面での支援を実施。</p> <p>ウ) 阿蘇産品の振興事業 阿蘇産品の魅力発信事業として「あそフラワーリズム（あそ花旅）」を展開し、各市町村の花に関する情報発信としてスタンプラリーを実施するとともに、スタンプラリーの商品に特産品を設定し阿蘇産品の宣伝と消費拡大に繋がりました。チューリップの球根を配布し、阿蘇の花々を周知するためにInstagram フォトコンテスト「あそ花旅春・秋」を開催している。</p> <p>エ) 世界ブランド事業の推進 各地のジオサイトにも熊本地震の様々な爪痕が残りましたが、引き続き「世界ジオパーク」の認定地域としてふさわしい地域社会の形成に資する活動を推進するために、阿蘇ユネスコジオパークへの新たな価値づけの検討と情報発信に取り組んだ同推進協議会の活動に対し財源面での支援。</p>



	<p>熊本地震の被災により減少している阿蘇地域への入込み回復と大自然とのふれあいを促進する目的で、バードウォッチングや星空観察と写真撮影などの体験イベントを一泊二日の行程で開催。</p> <p>さらに、阿蘇世界農業遺産推進協会と連携し、伝えたい阿蘇の農業資源やジオポイント等、世界認定を受けたブランド資源を活用したフットパスコースの開発及びモニターツアーを実施。</p> <p><b>地域の元気再生による地域力向上</b></p> <p>ア) 阿蘇地域元気再生支援事業</p> <p>地域の元気再生による地域力の向上を目指し、地域の自然、文化、歴史、産業、生活等の特性を地域資源として発見し、これらを活用し、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的とした取組みに助成。平成28年度は、熊本地震の発災を受け、要綱の改正を行い、助成金の予算を増額し、助成額を一市町村あたり100万円とし、地域における復興に関する取組みを支援。令和2年度も新型コロナウイルスからの復興に向けて要綱の改正を行い、助成金の予算を増額し、助成額を一市町村あたり100万円とし、地域における復興に関する取組み支援をおこなった。令和3年度も引き続き地域における復興に関する取組み支援を行う計画。</p> <p>イ) 情報発信と人材育成</p> <p>①情報誌の作成（情報誌、機関誌などを発行）</p> <p>民間主導型の地域協議会により、そこで広く深く情報収集や企画・編集作業などを行い、個性と公共性の高い情報誌を提供。</p> <p>※情報誌「a s o l u l u」の発行、2, 500部（令和2年度）</p> <p>②HPの管理運営</p> <p>「阿蘇ナビ」の稼働から5年が経過し、情報の鮮度は落ちており、5年の間に発生した生活や技術、観光等の様々な分野で連鎖して発生した“革新”による、社会的な価値観の変容による需要の多様化に対し、現行のシステムが追従しているとは言えず、今後は前時代的な運営状態から抜け出し、IoT分野の高度化を見越した継続性のある実用的なシステムに移行。</p> <p>※平成30年度：12, 781PV 令和 元年度：13, 483PV 令和 2年度：18, 488PV</p> <p><b>広域連携による競争力のある観光地づくり</b></p> <p>ア) 新たな阿蘇資産の構築・推進</p> <p>令和元年度においては、熊本県が進める「歩きによる地域活性化～Walkers Are Welcome」との連動を目的に、「Walkers Are Welcome A S O」に取り</p>
--	--

	<p>組みました。特に「阿蘇らしさ」に加えて「経済的波及効果」への貢献を踏まえて「第1回ASOロゲイニング大会 in 西原村」を、包括連携協定を締結している株式会社YAMAPと連携して実施しました。</p> <p>並行して「ブラトマリ（まちなかブラリ+泊まる）」事業も同時に構築し、7か所で調査を行い地図アプリに掲載しました。</p> <p>令和2年度には「第2回ASOロゲイニング大会 in 阿蘇」を阿蘇市中心に開催しました。</p> <p>阿蘇グリーンツーリズム協議会、阿蘇エコツーリズム協会と連携し活動しました。</p> <p>その他、阿蘇山上ビジターセンター運営協議会への参画や（公社）熊本県観光連盟の活動（事務局長会議や視察研修）観光PRイベントなどに参加し阿蘇地域の復興支援の一翼を担う活動を行いました。</p> <p>イ) 広域連動型観光まちづくり</p> <p>日本版DMO法人を対象にした国土交通省／観光庁「広域周遊観光促進のための新たな観光地域支援事業」に申請し、全国観光圏推進協議会加盟の13観光圏との連携事業や、インバウンド向けの動画作成などの財団事業及び九州3観光圏との事業を展開しました。令和2年度は、ツーリズムEXPO2020に出展しました。</p> <p>令和2（2020年）には、JR豊肥本線や国道57号、阿蘇大橋の開通及び令和5年（2023年）には南阿蘇鉄道の全線復旧が完了し、交通アクセスの改善大幅に図られることから阿蘇くじゅう高千穂ツーリストマップの英語版を製作し的確な情報発信に努めました。</p> <p>また、国内外から選考される国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成に向け、全国観光圏推進協議会と連動して「Undiscovered Japan」、宿泊施設の観光品質認証制度「SAKURAUQUALITY」（サクラクオリティ）などの事業を継続しました。</p> <p>また、次代を担う観光地域マネージャーの育成やレベルアップに努めました。</p> <p>その他、高千穂町観光協会との中九州DMO連携会議に参加しました。</p> <p>(定量的な評価)</p> <table><tr><td>H25 観光客数</td><td>22,369,304 人</td><td>対前年比</td><td>105.6%</td><td>(宿泊数</td><td>2,406,554 人</td><td>対前年比</td><td>107.4%)</td></tr><tr><td>H26 観光客数</td><td>20,367,032 人</td><td>対前年比</td><td>91.0%</td><td>(宿泊数</td><td>2,379,493 人</td><td>対前年比</td><td>98.9%)</td></tr><tr><td>H27 観光客数</td><td>20,866,983 人</td><td>対前年比</td><td>102.5%</td><td>(宿泊数</td><td>2,390,786 人</td><td>対前年比</td><td>100.5%)</td></tr><tr><td>H28 観光客数</td><td>13,743,898 人</td><td>対前年比</td><td>65.9%</td><td>(宿泊数</td><td>1,720,540 人</td><td>対前年比</td><td>72.0%)</td></tr><tr><td>H29 観光客数</td><td>15,147,798 人</td><td>対前年比</td><td>110.2%</td><td>(宿泊数</td><td>1,901,544 人</td><td>対前年比</td><td>110.5%)</td></tr><tr><td>H30 観光客数</td><td>17,437,529 人</td><td>対前年比</td><td>115.1%</td><td>(宿泊数</td><td>1,963,663 人</td><td>対前年比</td><td>103.3%)</td></tr><tr><td>R1 観光客数</td><td>16,612,813 人</td><td>対前年比</td><td>95.2%</td><td>(宿泊数</td><td>1,888,114 人</td><td>対前年比</td><td>96.1%)</td></tr></table>	H25 観光客数	22,369,304 人	対前年比	105.6%	(宿泊数	2,406,554 人	対前年比	107.4%)	H26 観光客数	20,367,032 人	対前年比	91.0%	(宿泊数	2,379,493 人	対前年比	98.9%)	H27 観光客数	20,866,983 人	対前年比	102.5%	(宿泊数	2,390,786 人	対前年比	100.5%)	H28 観光客数	13,743,898 人	対前年比	65.9%	(宿泊数	1,720,540 人	対前年比	72.0%)	H29 観光客数	15,147,798 人	対前年比	110.2%	(宿泊数	1,901,544 人	対前年比	110.5%)	H30 観光客数	17,437,529 人	対前年比	115.1%	(宿泊数	1,963,663 人	対前年比	103.3%)	R1 観光客数	16,612,813 人	対前年比	95.2%	(宿泊数	1,888,114 人	対前年比	96.1%)
H25 観光客数	22,369,304 人	対前年比	105.6%	(宿泊数	2,406,554 人	対前年比	107.4%)																																																		
H26 観光客数	20,367,032 人	対前年比	91.0%	(宿泊数	2,379,493 人	対前年比	98.9%)																																																		
H27 観光客数	20,866,983 人	対前年比	102.5%	(宿泊数	2,390,786 人	対前年比	100.5%)																																																		
H28 観光客数	13,743,898 人	対前年比	65.9%	(宿泊数	1,720,540 人	対前年比	72.0%)																																																		
H29 観光客数	15,147,798 人	対前年比	110.2%	(宿泊数	1,901,544 人	対前年比	110.5%)																																																		
H30 観光客数	17,437,529 人	対前年比	115.1%	(宿泊数	1,963,663 人	対前年比	103.3%)																																																		
R1 観光客数	16,612,813 人	対前年比	95.2%	(宿泊数	1,888,114 人	対前年比	96.1%)																																																		

<p>(これまでの経緯と対応)</p> <p>1. 経緯</p> <p>平成25年と比較した場合の平成26年の阿蘇くじゅう観光圏の総入り込み数、日帰り観光客及び宿泊者数の減少の主な要因は、平成26年4月に発生した鳥インフルエンザや夏の天候不良、阿蘇中岳火口周辺警報(噴火警戒レベル2)の影響と考えられる。</p> <p>また、平成27年9月には、阿蘇中岳第一火口が噴火し、噴火警戒レベルが2から3へ引き上げられるなど、マイナスの要因があったものの、阿蘇地域においては、プレミアム付き旅行券「くまもっと楽しむ券」の発行もあり宿泊客数は、外国人観光客が増加していることにより横ばいの状態であったが、日帰り客数、観光客総数ともに減少した。竹田市及び高千穂町においては噴火レベルの引き上げによる影響はあまりないとの結果となった。</p> <p>熊本県全体では、外国人宿泊客については、台湾・高雄や香港から阿蘇くまもと空港への国際定期便就航や、円安の継続、くまモン人気の定着等により、調査開始以来初めて40万人を超え、初めて60万人を超えた。平成28年においては、4月の熊本地震の発生に伴い、熊本県及び大分県において来訪者が大きく減少した。</p> <p>特に、阿蘇地域においてはJR豊肥本線、南阿蘇鉄道、国道57号などのアクセスの被災に加え風評被害による国内客及びインバウンド客が大幅に減少し観光業を始め関連する産業の被害額は多大なものとなった。竹田市・高千穂町でも、地震による直接的な影響に増して風評被害による減少が顕著であった。</p> <p>地震から復興に向けて、官民一体となって風評被害などの払拭に向けて努力していたさなか、10月の中旬「阿蘇山中岳の大規模噴火」により、阿蘇山上の立ち入り規制などにより、大きな打撃を受けた。</p> <p>その後の国による「ふっこう割」の発行により、ある程度の回復は見られたものの、その後においてはふっこう割りバウンドともいえる現象により、前年比70%という長いトンネルへと入ることとなった。</p> <p>令和2年3月より発生している新型コロナウイルス感染症の感染拡大により観光業、宿泊業には深刻なダメージがおこっている。</p> <p>阿蘇くじゅう観光圏プラットフォームである阿蘇地域振興デザインセンターでは、その対応策として①やまなみハイウェイ(県道11号線)等により、ルートで繋がる「阿蘇くじゅう観光圏」と「豊の国千年ロマン観光圏」の連携を図り、両観光圏での統一したコンセプトを設定、ストーリーのあるコースを造成し、広域の観光周遊ルートパンフレットを制作。②また、併せて福岡都市圏によるイベントを開催。③熊本県及び大分県から九州、そして全国に復旧復興を広く周知するほか、メディア等を活用した情報発信及び周遊促進を図った。</p> <p>このほか、④周遊モデルコース造成に伴う広域の観光周遊ルートの確立に向け、両観光圏を周遊するモニターツアーを企画及び実施した。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対しては、阿蘇の魅力を動画で配信する「新阿蘇紀行」を83件YouTubeへ投稿し、またJR博多駅やサクラマチクマモトのデジタルサイネージを活用して阿蘇への誘客をはかる広告を発信した。</p> <p>2. 対応</p> <p>今後の対応としては、モニターツアーアンケート調査の分析結果に見られる震災の影響において、平成28年熊本地震に係る正確な情報発信を行い、九州3観光圏による連携により、観光圏の認知度及びブランド価値の向上に繋げるため、インバウンドを視野にいたした周遊及び誘客、広域の観光周遊ル</p>
--

<p>一トの促進を図ることを目的として、多言語による九州3観光圏企画カード等を制作し、旅行会社等へ働きかけを行う。</p> <p>なお、地震後において「阿蘇くじゅう観光圏」として、よりまとまって復興にむけて取り組む機運が高まっている。たとえば、阿蘇地域では阿蘇管内の観光協会長会議が自主的に開催され、2次交通などへの統一した動きが始まろうとしており、ワーキンググループにも「観光協会連携WG」や「二次交通WG」などを設け、その活動を促進することとしている。</p> <p>地域DMO法人である高千穂観光協会やインバウンド受け入れ体制を強化している竹田市観光ツーリズム協会ともさらなる連携を図り、阿蘇くじゅう観光圏として連動していく。具体的に令和3年度事業では、九州3観光圏連携事業として、台湾・香港の旅行会社向けのウェビナーを開催する計画。また、中九州DMO連携事業として、高千穂町観光協会と連携し、欧米豪の富裕層向けの情報発信、予約受付、スルーガイドを行うシステム作りにかかる計画をしている。</p> <p>人材育成としては、観光地域づくりマネージャーは7人が修了しているが、実質活動を行っているのは、観光関連の業務に従事する4人のみであるため、平成29年度においては、3名の観光地域づくりマネージャーの育成を計画しており、観光協会や民間の人材を育成していく考えである。</p> <p>令和元年度には1名の新規マネージャーが誕生し、合計11名の体制となっている。</p> <p>観光地域づくりマネージャーの情報等の共有として、1から2ヶ月に1回程度の会議を開催する。</p> <p>また、既存計画が平成29年度をもって区切りを迎えるなかで、平成30年度から平成34年度までの、5か年を区切りとする次期の計画を策定する予定である。計画の骨子においては、育成を図ってきた観光地域づくりマネージャーをはじめとするメンバーにおいて、計画骨子の作成、観光の現場に即した立場からの意見交換の場とするとともに、次期の観光地域づくりマネージャー、即ち観光地域づくりを推進する中核を担う人材を各地域から人選し、育成の場としたいと考える。</p> <p>来訪者に対しては、開発に至った滞在体験プログラムにおいてブランドコンセプトを体感いただくなど、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを推進してきたが、観光圏事業が、平成29年度をもって区切りを迎えるなか、自然災害からの復旧復興、担い手の減少等の新たな課題を踏まえ、観光関係者のみならず、農業、商業、地域など、多様な関係者による合意形成を図り、ブランドコンセプトを共有のうえ、観光地域づくりを推進していく。南阿蘇鉄道復興整備計画とも協働していく。令和2年3月の阿蘇くじゅうデザイン会議で、阿蘇郡高森町「南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発事業」阿蘇郡南阿蘇村「立野駅周辺整備事業」について事業承認をおこなっている。</p> <p>滞在交流型の観光地づくりに向け、これまでの受入体制をベースに、観光やツーリズムに携わる関係者の「おもてなし」に更に磨きをかけることを目的として、それぞれの地域テーマに基づいたコンシェルジュ研修を実施し、相互の情報共有、コミュニケーションの向上を図ってきた。</p> <p>平成29年度については、上記関係者に商工業、農業、地域づくり団体等を含め、当該観光圏における多種多様な関係者による滞在交流型観光の推進を目的として、観光地域づくりセミナーとして開催。令和2年度には「観光地域づくりは女性の力で」と題し、女性の活躍をテーマにした研修会を開催した。</p>
---

また、宿泊施設を対象として、観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」を導入。本件については、質の高い観光サービス情報を発信するとともに、サービスレベルの維持向上も大きな要素の一つであると捉え、継続的に取り組む。令和元年度は登録施設数22件、外国人の宿泊者延べ人数は25,451人。令和2年度1件追加している。

(実施体制の概要)

(公財)阿蘇地域振興デザインセンターを事務局に、市町村、宿泊事業者、交通事業者、商工、農林事業者、教育機関などが多様な関係者が参画し、地域全体が密接に連携した運営を実施。

<実施体制図>

「阿蘇くじゅう観光圏」(日本版DMO)推進体制

(最高意思決定機関)(公財)阿蘇地域振興デザインセンター 理事会

- ・熊本県
- ・阿蘇市
- ・南小国町
- ・小国町
- ・産山村
- ・高森町
- ・西原村
- ・南阿蘇村
- ・山都町
- ・大分県
- ・竹田市
- ・宮崎県
- ・高千穂町

(新)阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議(執行機関約56名)

行政機関 観光関係	民間事業者など
阿蘇地域振興局担当課代表	九州旅客鉄道(株)、南阿蘇鉄道(株)
観光圏市町村担当課代表	産交バス(株)阿蘇事業部、(株)JTB九州、
観光圏県関係担当課代表	全日本空輸(株)熊本支店、
観光圏各観光協会代表	日本航空(株)熊本支店、
観光圏観光旅館組合代表	阿蘇草原再生協議会、阿蘇ジオパーク推進協議会、
	阿蘇地域世界農業遺産推進協会、
	阿蘇世界文化遺産推進室、熊本大学、東海大学、
	(公財)阿蘇地域振興デザインセンター

連携

観光圏アドバイザー 清水慎一  
大正大学地域構想研究所

観光協会連携WG

人材育成WG

食文化WG

インバウンド&プロモーションWG

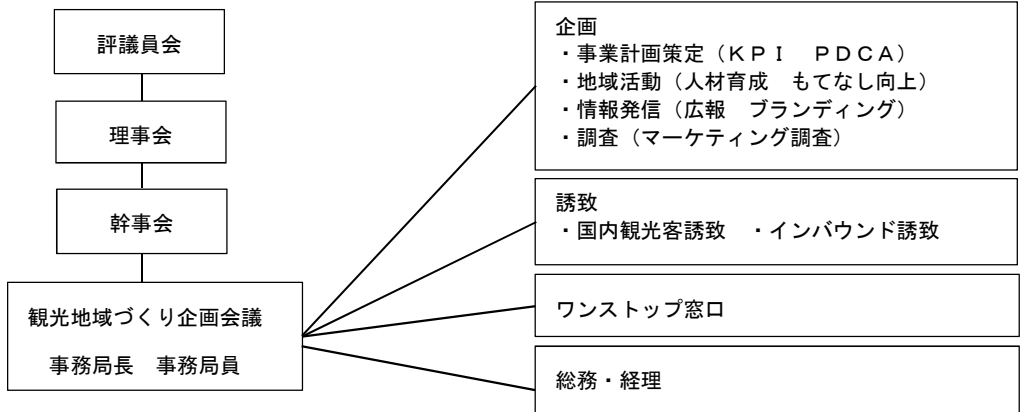
観光圏ワーキンググループ  
阿蘇くじゅう観光会議の構成  
団体職員及び観光地域づくり  
マネージャー(11名)

連携

阿蘇エコツーリズム協会  
阿蘇グリーンツーリズム協議会  
九州3観光圏連携事業  
中九州DMO連携事業

観光地域づくりプラットフォーム

(公財)阿蘇地域振興デザインセンター



「阿蘇くじゅう観光圏」事業関連図

- ・観光圏推進協議会(最終意思決定機関4名 年2回程度)
- ・阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議(事業方針・情報共有など 年2回程度及び必要がある場合開催)
- ・観光圏ワーキンググループ(事業計画立案・関係団体情報共有など)
- ・観光地域づくり会議(阿蘇地域振興デザインセンター内での検討会議、情報共有 随時開催)

(別添) 様式 1

--	--

## 2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

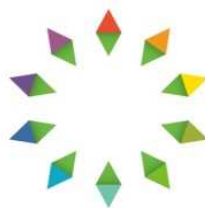
【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

阿蘇地域 8 市町村と大分県竹田市、宮崎県高千穂町による「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」を設置し、顧客視点に立って、観光エリアマーケティングに基づく旅行商品の開発、広報・PR、人材育成を始め、地域づくりなどと連携した取り組みを行ってきた。

このエリアは、自然、歴史、文化の流れや物流および観光資源の面から一体性を持ち、共通のコンセプトを有することから、平成 20 年度から、一体となって「阿蘇くじゅう観光圏」事業に取り組んでいる。



ASO Caldera volcano  
Grassland Crown filled with soul

◆ブランドコンセプト

“阿蘇カルデラ” ~命きらめく草原の王冠~  
阿蘇の外輪山を柔らかに覆う草原。  
そこから見はるかす幽玄のカルデラ光景。

緑のベルベットを吹きわたる風の音に、永らく営まれてきた人々の暮らしが徐々に色彩を帯びていく。

草の香りが記憶のひだをなで、身魂はにわかに居ずまいを正す。そこに住まう人、旅路に訪れる人、だれもが人生の来し方行く末にしばし思いを馳せる。

九州のほぼ中央に位置する「阿蘇くじゅう国立公園」は、我が国を代表する国立公園であり、周囲約 120 km に及ぶ世界最大級のカルデラ地形のただなかにある阿蘇五岳と、北東部のくじゅう連山は無辺の草原によって一体となり、今なお続く活発な火山活動からは、地球の鼓動を直に体感することができる。

熊本県の阿蘇エリアと大分県の竹田くじゅうエリア、そして、両地域を見渡す大パノラマと阿蘇の溶岩流によって形成された美しい峡谷に彩られる宮崎県の高千穂エリア。3つの県にまたがるこの広大な地域は、自然景観はもとより、歴史的、文化的に見ても紛れもなく一連の地域である。湖面を形成せず、陥没地に 5 万人の人々が暮らし、外輪山がほぼ円形に巨大な丘陵をめぐらすカルデラの様を一望のもとに収められるのは世界的に見ても阿蘇だけである。

◆気候

西の有明海から吹く風が標高 1,000m を超す中央火口丘群に沿って上昇するため、阿蘇山頂は年間約 3,000mm 以上の降水があり、全国的に見ても屋久島、尾鷲について 3 番目に多い降水量である。また、阿蘇カルデラ内の年間平均気温は約 13 度と年間を通して低く夏は冷涼で冬は寒さが厳しい高原性気候となっている。



◆自然

地下水が豊富であり、多くの湧水が分布している。周辺には広がる草原は古くから牛馬の放牧地として利用され、刈り取った草は牛馬の飼料となるなど人々の暮らしの中で保たれてきた。草原には「ヒゴタイ」など大陸系及び北方系の植物が生育しており、希少動物種も多く確認されている。また、中央火口丘周辺にはミヤマキリシマの群落が形成されている。

◆文化

古くは阿蘇山岳信仰の修行場とされ、現在でも農耕にまつわる行事や神楽、火焚き神事など多くの祭礼祭事が伝承されている。また、各地で行われる春の野焼きや世界農業遺産にも認定された田園風景など阿蘇くじゅう地域独特の文化が育まれてきた。

◆食

農耕文化が発達し、米や野菜など山の幸に恵まれており、古くから地域の人々に愛されてきた阿蘇田楽や阿蘇高菜を用いた郷土料理などがある。また、あか牛の繁殖と肥育が盛んであり、脂身が少ないあか牛料理は昨今のヘルシー志向と合せ、人気を博している。また、複数分布する温泉地は恵まれた泉質を合せ、地熱を利用した蒸し料理などもあり多様な食資源と文化に育まれている。

## (別添) 様式 1

【観光客の実態等】						
平成25年						
	総入込客数(人)	対前年比	日帰り客数(人)	対前年比	宿泊者数(人)	対前年比
阿蘇地域	17,619,212	106.4%	15,655,787	106.5%	1,963,425	106.0%
竹田市	3,304,492	105.2%	3,004,063	101.2%	300,429	110.4%
高千穂町	1,445,600	105.4%	1,302,900	105.4%	142,700	105.9%
合計	22,369,304	105.6%	19,962,750	104.4%	2,406,554	107.4%
平成26年						
	総入込客数(人)	対前年比	日帰り客数(人)	対前年比	宿泊者数(人)	対前年比
阿蘇地域	15,979,855	89.6%	13,826,188	88.3%	1,965,667	100.1%
竹田市	2,958,077	98.5%	2,958,077	98.5%	266,926	88.8%
高千穂町	1,429,100	98.9%	1,282,200	98.4%	146,900	103.0%
合計	20,367,032	91.0%	18,066,465	90.5%	2,379,493	98.9%
平成27年						
	総入込客数(人)	対前年比	日帰り客数(人)	対前年比	宿泊者数(人)	対前年比
阿蘇地域	15,855,530	100.4%	13,895,061	105.7%	1,960,469	99.7%
竹田市	3,395,253	114.8%	3,142,036	106.2%	253,217	94.8%
高千穂町	1,616,200	113.1%	1,439,100	112.2%	177,100	121.0%
合計	20,866,983	102.5%	18,476,197	102.2%	2,390,786	100.5%
平成28年						
	総入込客数(人)	対前年比	日帰り客数(人)	対前年比	宿泊者数(人)	対前年比
阿蘇地域	9,875,985	62.3%	8,535,440	61.4%	1,340,545	68.4%
竹田市	2,701,613	79.6%	2,483,218	79.0%	218,395	86.2%
高千穂町	1,166,300	72.2%	1,004,700	69.8%	161,600	91.2%
合計	13,743,898	65.9%	12,023,358	65.0%	1,720,540	72.0%
平成29年						
	総入込客数(人)	対前年比	日帰り客数(人)	対前年比	宿泊者数(人)	対前年比
阿蘇地域	11,030,911	111.7%	9,537,835	111.7%	1,493,076	111.4%
竹田市	2,814,887	104.2%	2,597,519	104.6%	217,368	99.5%
高千穂町	1,302,000	111.6%	1,110,900	110.6%	191,100	118.3%
合計	15,147,798	110.2%	13,246,254	110.2%	1,901,544	110.5%

## (別添) 様式 1

平成30年						
	総入込客数(人)	対前年比	日帰り客数(人)	対前年比	宿泊者数(人)	対前年比
阿蘇地域	13,200,633	111.7%	11,673,658	122.4%	1,526,975	102.3%
竹田市	2,835,496	100.7%	2,600,208	100.1%	235,288	108.2%
高千穂町	1,401,400	107.6%	1,200,000	108.0%	201,400	105.4%
合計	17,437,529	115.1%	15,473,866	116.8%	1,963,663	103.3%
令和元年						
	総入込客数(人)	対前年比	日帰り客数(人)	対前年比	宿泊者数(人)	対前年比
阿蘇地域	12,101,448	91.6%	10,646,275	91.1%	1,455,173	95.2%
竹田市	2,923,679	103.1%	2,700,538	103.8%	223,141	94.8%
高千穂町	1,368,400	97.6%	1,158,600	96.5%	209,800	104.1%
合計	16,612,813	95.2%	14,724,699	95.1%	1,888,114	96.1%

## ※参考資料・外国人宿泊

	総入込客数(人)	宿泊者数(人)	内・宿泊者数 (外国人)(人)	外国人宿泊割合	観光消費額(円)
平成27年	20,866,983	2,390,786	387,269	16.2%	52,217,518
平成28年	13,743,898	1,720,540	253,448	14.7%	43,666,605
平成29年	15,147,798	1,901,544	394,400	20.7%	48,081,030
平成30年	17,437,529	1,963,663	460,113	23.4%	54,512,379
令和元年	16,612,813	1,888,114	386,491	20.5%	49,719,533

※当該観光圏における観光圏整備実施計画の目標について、達成状況を把握し、効果的な事業推進及び滞在交流型の観光地域づくりの指標とすることを目的として実施。平成26年度及び平成27年度におけるモニタリング調査来訪者満足度については向上しており、平成28年度においては、平成28年熊本地震により来訪者が減少している状況であるが70%を下回る結果となった。平成29、30年度においては外国人宿泊割合の増加を確認することができる。

(別添) 様式 1

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

(観光施設・商業施設)

- ・阿蘇ファームランド
- ・阿蘇カドリー・ドミニオン
- ・らくのうマザーズ阿蘇ミルク牧場
- ・阿蘇お猿の里 猿まわし劇場
- ・阿蘇火山博物館
- ・くじゅう花公園

(自然)

- ・阿蘇くじゅう国立公園（阿蘇五岳、カルデラ、草千里、大観峰、ジオサイト）

(文化)

- ・世界農業遺産（2013年5月認定）  
草原の持続的活用を通じた農業
- ・阿蘇ユネスコ世界ジオパーク認定（2014年9月）  
科学的に貴重な地質や地形とそれに由来する生態系や文化を維持する生産活動
- ・世界文化遺産登録推進事業  
重要な文化的な景観を世界文化遺産の登録に向けて推進中

(イベント等)

- ・阿蘇の四季と巡る「農耕祭事」  
卯の祭、田作祭、おんだ祭、火焚き神事、田実祭、流鏝馬
- ・岡城桜まつり
- ・南阿蘇桜さくら植木まつり
- ・高森峠千本桜“桜まつり”
- ・鍋ヶ滝ライトアップ
- ・杖立温泉鯉のぼり祭り
- ・高森湧水トンネル七夕まつり
- ・高森湧水トンネルクリスマスファンタジー
- ・風鎮祭
- ・長湯炭酸泉まつり
- ・阿蘇瀬の本高原マラソン大会
- ・ヒゴタイ&コスモス祭り
- ・阿蘇アスペクタ カントリーゴールド
- ・下城大イチョウライトアップ
- ・古閑の滝ライトアップ
- ・冬あかり（西原村）
- ・黒川温泉湯あかり
- ・新酒とふるさとの味まつり（高森町）
- ・新酒まつり（小国町）
- ・みなみあそ復興マラソン（南阿蘇村）
- ・大阿蘇元気ウォーク
- ・神楽フェスティバル

(別添) 様式 1

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

- ・阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村、山都町、竹田市、高千穂町
- ・施設数&収容力：

	阿蘇DMO 宿泊施設数等										収容 人員
	~99人	~299 人	300人 以上	~99人	~299 人	300人 以上	民宿	その他	民泊	合計	
	ホテル ①	ホテル ②	ホテル ③	旅館 ①	旅館 ②	旅館 ③					
阿蘇市	2	3	4	13	3	1	8	20	12	66	6,607
南小国町		1		41	3		2	16	1	63	2,854
小国町		1	1	30			1	1	4	38	2,045
産山村		1		2			1	3	1	8	459
高森町		2		17						19	712
西原村							1	1	1	3	115
南阿蘇村	1	2	1	12			15	21	2	54	3,356
山都町	1			3							157
高千穂	2	3		7	1		10	9	9	41	1,403
竹田市	5	1		17			18	13			2,257
										292	19,965

(別添) 様式 1

【利便性：区域までの交通、域内交通】

阿蘇地域

・鉄道

【JR九州】豊肥本線（竹田市を含む）

九州横断特急（阿蘇～別府間）1日3往復

特急あそぼーい！（阿蘇～別府間）1日2往復（期間・曜日限定）

※肥後大津～阿蘇間は熊本地震の影響により不通のため、

肥後大津～宮地駅間で臨時のバスを運行。（日・祝を除く）

※新型コロナウイルス感染拡大による影響あり。

【私 鉄】南阿蘇鉄道

高森駅～中松駅間において部分運転

※中松駅～立野駅間は熊本地震の影響により不通。

※新型コロナウイルス感染拡大による影響あり。

・航空

【熊本空港】熊本空港～肥後大津駅まで空港ライナーが運行（1日54便）

※肥後大津駅から宮地駅まで臨時のバスを運行。

※新型コロナウイルス感染拡大による影響あり。

・バス

【九州産交】阿蘇方面

熊本駅→阿蘇→大分 特急やまびこ号（竹田市を含む）

熊本駅→阿蘇→別府 九州横断バス（久住エリアを含む）

福岡 ⇄阿蘇直行バス（西鉄バス九州産交バス共同運航）

北部方面 福岡 →黒川温泉 高速福岡 - 黒川（西鉄、日田バスを含む）

福岡 →杖立温泉（西鉄、日田バスを含む）

福岡 →ゆうステーション（西鉄、日田バスを含む）

南阿蘇方面 熊本駅→高森町 快速たかもり号（1日3便）

熊本駅→高森町 快速南郷ライナー（1日2便）

※新型コロナウイルス感染拡大による影響あり。

【域 内】各地域にて路線バスを運行している。

また、タクシー等も運行している。

（阿蘇地域、竹田市、高千穂町共通）

・道路（自動車）

【高 速】熊本IC、益城熊本空港ICから1時間30分（阿蘇駅）

日田ICから40分（小国ゆうステーション）

玖珠ICから30分（小国ゆうステーション）

【レンタカー】熊本空港周辺に複数店舗あり。

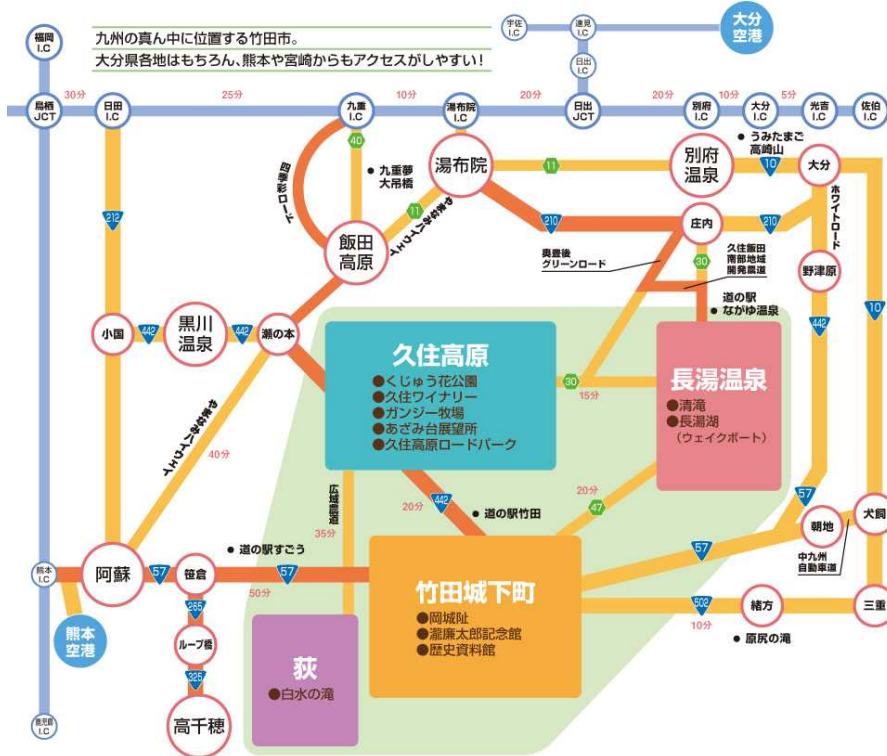
阿蘇駅周辺に1店舗。

竹田市

【区域までの交通】



【区域内の交通】



(別添) 様式 1

高千穂町

【区域までの交通】

・公共交通

- ・福岡（博多BC、天神BC）から高速バスが往復4便（1日）
- ・熊本（熊本駅、熊本交通センター、熊本空港）からバスが往復2便（1日）
- ・延岡バスセンターから特急2便を含む往復15便（1日）※日曜・祝日を除く。
- ・宮崎（宮交シティ、宮崎駅）から土・日曜・祝日・繁忙期に1便（1日）

※新型コロナウイルス感染拡大による影響あり。

・道路（自動車）

- ・福岡ICから約3時間
- ・宮崎ICから約2時間
- ・大分ICから約2時間20分

【区域内の交通】

- ・高千穂バスセンターから町営のふれあいバスが運行。

※新型コロナウイルス感染拡大による影響あり。



(別添) 様式 1

【外国人観光客への対応】

① 外国人観光客への案内所

- ・阿蘇インフォメーションセンター J N T O 認定 カテゴリーⅡ
- ・道の駅阿蘇 (A S O 田園空間博物館) J N T O 認定 カテゴリーⅡ
- ・黒川温泉観光旅館協同組合「風の舎」
- ・竹田市観光ツーリズム協会 J N T O 認定 カテゴリーⅠ
- ・高千穂観光協会 (日本版DMO候補法人) J N T O 認定 カテゴリーⅡ
- ・阿蘇ジオパーク推進協議会

② 観光情報

- ・ホームページ
- ・阿蘇ジオパーク推進協議会パンフレット

③ 観光施設

- ・阿蘇火山博物館 (多言語ガイド) J N T O 認定 カテゴリーⅡ
- ・阿蘇カントリー・ドミニオン (多言語ガイド)
- ・阿蘇ファームランド (多言語ガイド) J N T O 認定 カテゴリーⅡ

④ 宿泊施設

- ・4か国語表示 (一部)
- ・インターネット環境整備 有線 W i - F i (圏域の大半で対応可)
- ・衛星放送テレビ (一部)

⑤ 交通機関

- ・産交バス(株) 高速バスで多言語アナウンス
- ・宮崎交通(株) 高速バスで多言語アナウンス
- ・日田バス(株) 高速バスで多言語アナウンス

### 3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	情報発信の波及効果や潜在的な観光客数の把握、また、観光地における需要の傾向などの指標の一つにするため。	阿蘇地域の観光情報などの発信を行うWEBサイト「阿蘇ナビ」のアクセス数を収集。
阿蘇くじゅう観光圏観光統計	当該観光圏における観光圏整備実施計画の目標について、達成状況を把握し、効果的な事業推進及び滞在交流型の観光地域づくりの指標とするため。	観光圏の構成市町村別の統計を収集し、年度別の総入り込み数、宿泊者数及び外国人宿泊者数、観光消費額を比較することで、その増減の理由などについて分析。
阿蘇くじゅう観光圏満足度調査 ①属性 (性別、年齢構成、居住地) ②旅行内容について (同行者、滞在時間、交通手段、情報源、動機、旅行消費額等) ③施設について (回数、期待充足度、費用対効果、満足度、紹介意向、再来訪意向等)	経済波及効果の測定および観光地域づくりの戦略策定に活用する。 ・顧客満足度の向上 ・観光客誘致 ・リピーター創出 ・旅行消費額の向上	来訪者へのアンケート調査。 ・宿泊施設への配布依頼 ・主要交通基点における聞き取り調査
熊本県観光統計 ①観光概況 (国内、インバウンド) ②観光客数(日帰り・宿泊) ③観光客推移 ④地域ブロック別動向 ⑤修学旅行宿泊者数 ⑥観光消費額	・観光入込客数の把握 ・経済波及効果の算定	各市町村および宿泊施設からの報告。

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p><b>強み (Strengths)</b>  <b>・自地域で積極的に活用できる強みは何か？</b></p> <p>① 世界有数のカルデラ式火山～阿蘇五岳と外輪山</p> <p>② 千年の草原景観 (国選定重要文化的景観)          ・阿蘇山麓やくじゅう高原に広がる草原</p> <p>③ 阿蘇くじゅう国立公園に指定された景観・自然環境          ・九州の中央に位置する広大な国立公園</p> <p>④ 世界文化遺産候補          ・カルデラに暮らす人々と草原景観</p> <p>⑤ 阿蘇ジオパーク          ・世界ジオパークとしてユネスコが認定</p> <p>⑥ 祖母傾ユネスコエコパーク～大分・宮崎          ・ユネスコ・エコパーク</p> <p>⑦ 世界農業遺産 (阿蘇)          ・草原に育まれる多様な農畜産業</p> <p>⑧ 世界農業遺産 (高千穂郷)          ・森林管理と棚田保全</p> <p>⑨ 国立公園満喫プロジェクト          ・阿蘇くじゅうがナショナルパークに選定 (全国8か所の国立公園のひとつ)</p> <p>⑩ 豊富な温泉群 (内牧、黒川、杖立温泉、わいた温泉、地獄温泉、長湯温泉等)</p> <p>⑪ 豊かな農畜産品          ・あか牛 牛乳、高冷地野菜など          ・野草堆肥で育てられた野菜地域ならではの食・グルメ          ・あか牛料理・田楽・酪農製品          ・阿蘇高菜漬け</p> <p>⑫ 伝統芸能・神話          ・神楽 ・御田植え祭り・高千穂の神話</p> <p>⑬ 神社・城など          ・阿蘇神社 ・高千穂神社 ・岡城</p> <p>⑭ 豊富な湧水・水源</p>	<p><b>弱み (Weaknesses)</b>  <b>・自地域で改善を必要とする弱みは何か？</b></p> <p>① 交通アクセス 二次交通          ・熊本地震による国道57号線及び豊肥線、南阿蘇鉄道不通。国内観光客やインバウンドの減少。          ・熊本空港からのアクセス          ・エリア内の周遊          ・バスと公共交通機関</p> <p>② 外国人観光客受け入れ環境          ・無料LANサービスの未整備 (一部地域)          ・キャッシュレス化への対応</p> <p>③ 観光客受け入れ体制の差異          ・滞在交流プログラムの充実          ・宿泊施設の老朽化          ・ガイドの高齢化</p> <p>④ 耕作放棄地の拡大 空き家の増加          ・人口減少、少子高齢化          ・観光産業の担い手不足</p> <p>⑤ 阿蘇山上の復興</p> <p>⑥ 阿蘇鉄道の復興</p>

(別添) 様式 1

外部環境	<b>機会 (Opportunity)</b> ・自地域にとって追い風となる要素は何か？  ① 世界文化遺産登録 ② 国立公園「満喫プロジェクト」 (令和3年～令和7年) ③ 東京オリンピックの開催 (令和3年) ④ 大阪万博の開催 (令和7年)	<b>脅威 (Threat)</b> ・自地域にとって逆風となる要素は何か？  ① 少子高齢化、人口減少による旅行規模・観光消費額の縮小 ② 北朝鮮問題 ③ 世界的な経済情勢等の不安定化 ・中国・東アジアの経済成長の鈍化 ・英国の離脱による欧州経済の不安定化 ・テロ ・地震・噴火・水害などの自然災害。加えて温暖化による異常気象など。 ・新型コロナウイルスへの対応
------	--	--

(2) ターゲット

<p>○第1ターゲット層 <u>国内 (主に首都圏) 40代～60代の女性</u></p> <p>&lt;選定の理由&gt;</p> <p>① 少子高齢化、人口減少と、我が国の観光を取り巻く状況は厳しいものがあります。首都圏を中心に広域関東圏の11都県には5000万人が在住しており、我が国の半数近くの大きな市場がある。</p> <p>② 若い世代の旅行離れが進んでいるなか、広域関東圏では40代～60代の女性が、推定で1500万人ほどおり、国内旅行を牽引するターゲット世代として位置付ける。</p> <p>③ 阿蘇くじゅうは、九州の中でも知名度が高く、特に阿蘇は修学旅行で訪れたことの経験値が高い。広域関東圏が持つ、人口規模ばかりでなく、その所得の高さも魅力であり、経済的価値が高い。</p> <p>&lt;取り組み方針&gt;</p> <p>① 顧客満足度調査の結果などを分析し、再来訪につながるコンテンツを磨き上げる。</p>
<p>○第2ターゲット層 <u>九州全域 (主に福岡都市圏) と広島以西の30代～50代の女性グループの再来訪者</u></p> <p>&lt;選定の理由&gt;</p> <p>① 福岡都市圏在住の女性の割合は、九州のなかでもとびぬけて多く、当エリアへの来訪者も多く安定的な入り込みが見込める。また、新幹線を利用して訪れる来訪者として広島圏域からも多い。</p> <p>② 若い世代の旅行離れが進んでいるなか、福岡都市圏の30代～50代の女性が、国内旅行を牽引するターゲット世代として位置付けている。</p> <p>&lt;取り組み方針&gt;</p> <p>① 顧客満足度調査の結果などを分析し、再来訪につながるコンテンツを磨き上げる。</p> <p>② エリア内の観光客受け入れ体制の整備と豊富にある温泉地の魅力向上を図り、このターゲット層に適うコンテンツやストーリー性及び体験プログラムなどの磨き上げを行い、滞在時間の延長による宿泊を高め、消費額の増額による地域振興及び経済効果の上昇を目論む、同時にWEBやSNSを活用した発信を行う。</p>

○第3ターゲット層

訪日外国人(中国、台湾、東アジア)のファミリー層

<選定の理由>

- ① 本エリアは、九州を代表する一大観光地であり、国際的に知名度の高い阿蘇やくじゅうを有しており、特にエリア内に広がる草原景観の人気は高い。また、近年、エリア内の温泉地である黒川温泉や内牧温泉、長湯温泉などには、クオリティーの高い宿泊施設の整備が進んでおり、中国や台湾を含む東アジアのファミリー層の利用度が高くなっている背景がある。加えて、現在、エリア内の宿泊施設を対象にインバウンド対応の品質認証制度(サクラクオリティ)を推進しており、東アジア圏のファミリー層もターゲットとした活動を加速する。

<取り組み方針>

- ① 満足度調査の分析も含め、再来訪につながる要因を迫り、その結果に基づいたターゲット層の訪日の理由に沿った魅力あるコンテンツのブラッシュアップを図る。また、固有のアクティビティや健康志向に対するコンテンツの充実を進める。
- ② 海外のインバウンド会社との連携やプロモーションの強化を推進。
- ③ 宿泊施設への品質認証制度(サクラクオリティ)の推進を図り、安全・安心を担保とする選ばれる観光地を目指す。

○第4ターゲット層

欧米豪の富裕層

<選定の理由>

- ① 欧米豪からの来訪者をターゲットとした満喫プロジェクトやジオパークやエコパーク、世界農業遺産などのプロジェクトが動いていること。
- ② 豪州からのエコツーリストなどの関心も高い。

<取り組み方針>

- ① 顧客満足度調査の結果などを分析し、再来訪につながるコンテンツを磨き上げる。
- ② エリア内の観光客受け入れ体制の整備と豊富にある温泉地の魅力向上を図り、このターゲット層に合うコンテンツやストーリー性及び体験プログラムなどの磨き上げを行い、滞在時間の延長による宿泊を高め、消費額の増額による地域振興及び経済効果の上昇を目論む。同時に、WEBやSNSを活用した発信を行う。
- ③ 「UNDISCOVERED JAPAN」の活動により、販路の拡大を推進。
- ④ 宿泊施設への品質認証制度(サクラクオリティ)の推進を図り、安全・安心を担保とする選ばれる観光地を目指す。

(3) コンセプト

<p>①コンセプト</p>	<p>“阿蘇カルデラ” ～命きらめく草原の王冠～ 阿蘇の外輪山を柔らかくに覆う草原。 そこから見はるかす幽玄のカルデラ光景。</p>
<p>②コンセプトの考え方</p>	<p>阿蘇の外輪山を柔らかくに覆う草原。 そこから見はるかす幽玄のカルデラ光景。 緑のベルベットを吹きわたる風の音に、永らく営まれてきた人々の暮らしが徐々に色彩を帯びていく。 草の香りが記憶のひだをなで、身魂はにわかに居ずまいを正す。 そこに住まう人、旅路に訪れる人、だれもが人生の来し方行く末にしばし思いを馳せる。</p> <p>阿蘇の外輪山は、カルデラに暮らす人々にとって自らの矜持を渡し固める紗幕であり、旅人にとって日常世界を転換させる結界線である。その外輪山を際立たせるのが稜線に広がる草原、そし悠久の時間である。大気はそよぎ、草は芽吹き、水は循環し、そして人々の希望がきらめく。</p> <p>人々はその緑香る高みに身を置くとき、心を鎮め、人生を遠望する。まるで大きな力に抱擁されるよう、安寧の心持ちから新たな光明、澄みわたる救済を得ることができる。</p> <p>人生観あるいは死生観。阿蘇カルデラもまた巡りゆく時間の一断面をなす。比類なき自然と人々が折り合いをつけてきた阿蘇カルデラは、単に景勝地であることを超え、命魂の蘇生をことほぐ別天地であることを世界へ訴求する。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	DMOを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニケーションの場を年2回程度設ける。 阿蘇くじゅう観光圏と連携する多様な主体（自治体・宿泊・商工・交通・農林、教育機関など）が参画する「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」を中心にワーキンググループにより事業進捗状況を共有する。 予定されるワーキンググループ。 1. 観光協会連携      2. 食文化 3. 二次交通            4. インバウンド&プロモーション
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	①有償及びボランティア団体などで構成される（仮）阿蘇ガイド協会へ、エリア内の歴史や自然を学ぶ機会や活動の創出の情報提供・共有により、サービス向上や受け入れ体制の拡充を図る。 ②宿泊施設など、地域が提供する観光サービスに係る品質認証制度（サクラクオリティ）を促進する。
一元的な情報発信・プロモーション	①情報発信の一元化 ②地域の資源や特性を生かした商品づくり ③マーケティングに基づく、プロモーション戦略の構築

**6. K P I (実績・目標)****(1) 必須K P I**

指標項目	単位	30年(度)	1年(度)	2年(度)	3年(度)	4年(度)	5年(度)
●旅行消費額	百万円	55,278 (50,000)	49,719 (55,000)	(60,000)	(65,000)	(70,000)	(75,000)
●延べ宿泊者数	千人	1,963 (2,312)	2,077 (2,474)	(2,647)	(2,832)	(3,030)	(3,230)
●来訪者満足度	%	34 (25)	35 (27)	40 (29)	(31)	(33)	(33)
●リピーター率	%	62 (65)	69 (65)	75 (65)	(65)	(65)	(65)

## ※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

**【検討の経緯】**

阿蘇くじゅう観光圏に対するK P I (実績・目標) 設定においては、来訪者満足度やリピーター率の向上を図るとともに、平成28年熊本地震の影響を考慮し、平成31年度に震災前の水準以上に回復することを目標として設定。設定したK P Iについては、阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議において協議し、年度ごとに目標値を設定している。

**【設定にあたっての考え方】****●旅行消費額**

阿蘇くじゅう観光圏において実施する調査により設定。

平成29年度については、熊本県が平成28年8月に策定した「復旧・復興に向けた主な取組みのロードマップ」において、観光消費額に関する目標は含まれていない。しかしながら、その他の目標については概ね平成31年度に震災前の水準以上に回復すると掲げられている。

このことから、阿蘇くじゅう観光圏における旅行消費額もこれに準拠し、年5,040百万円増加すると平成31年度に震災前の平成27年度の旅行消費額を越えることから、平成29年度以降、年5,040百万円増と設定する。

**●延べ宿泊者数**

阿蘇くじゅう観光圏全体の延べ宿泊客数により設定。

平成29年度については、熊本県が平成28年8月に策定した「復旧・復興に向けた主な取組みのロードマップ」において、観光消費額に関する目標は含まれていない。しかしながら、その他の目標については概ね平成31年度に震災前の水準以上に回復すると掲げられている。

このことから、阿蘇くじゅう観光圏における延べ宿泊者数もこれに準拠し、年7%増加すると平成31年度に震災前の平成27年度の延べ宿泊者数を越えることから、平成29年度以降、年7%増と設定する。

**●来訪者満足度**

阿蘇くじゅう観光圏において実施する調査により設定。

平成28年度の実績をもとに各年2%増と設定している。

**●リピーター率**

阿蘇くじゅう観光圏において実施する調査により設定。

平成28年度の実績をもとに各年2%増と設定している。



## (2) その他の目標

指標項目	単位	30年(度)	1年(度)	2年(度)	3年(度)	4年(度)	5年(度)
●WEBサイトのアクセス数	P V	12,781 (60,000)	13,483 (70,000)	18,488 (80,000)	(90,000)	(100,000)	(110,000)
●一人あたりの旅行消費額	円	38,004 (30,168)	37,220 (30,468)	31,082 (30,768)	(31,068)	(31,368)	(31,668)
●滞在時間(一泊2日)	%	72.4 (38)	57.3 (40)	75.2 (42)	(44)	(46)	(48)
●体験プログラム・ガイドツアー参加者数	%	16 (22)	12 (24)	17 (26)	(28)	(30)	(32)

## ※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討のプロセス及び考え方

**【検討の経緯】**

その他目標の数値目標については、全国観光圏推進協議会の実施する阿蘇くじゅう観光圏来訪者満足度調査を参考に設定。その値を「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」にて検討し、年次ごとに目標値を設定している。

**【設定にあたっての考え方】****●一人あたりの旅行消費額**

平成29年度から令和4年度の全体消費額においては、全国観光圏推進協議会において毎年実施する「阿蘇くじゅう観光圏来訪者満足度調査」を参考に設定。

③旅行消費額(一人当たり)年300円増加を目標とした。

**●滞在時間(一泊2日)**

当該観光圏・満足度調査(滞在時間調査)の全回答数を100とし、その内、「一泊2日」と回答した数を%で表している。当観光圏では、日帰り客の割合が49.1%であり、経済効果からの観点から、滞在時間の延長が課題であり、強化項目として毎年ごとの目標値を2%増とした。

**●体験プログラム・ガイドツアー参加者数**

当該観光圏・満足度調査(体験プログラム・ガイドツアー調査)の全回答数を100とし、その内の「参加あり」と回答した数を%で表している。当観光圏では、雄大な自然を活用したアクティビティ(サイクリング・乗馬・温泉浴・気球など)のプログラムが充実して来ており、その参加者数を伸ばすことが、滞在時間の延長に繋がり、経済効果を生むことから、推進項目として毎年ごとの目標値を2%増とした。

## 7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

## (1) 収入

(単位: 円)

年度	総収入		内 訳	金 額
平成 30 年度	78,486,607	①	基本財産運用益	63,983,038
		②	国からの補助金 (訪日外国人旅行者周遊事業に係る)	8,519,483
		③	県からの補助金 (地域づくり夢チャレンジ推進補助金)	903,000
		④	市町村等負担金 (訪日外国人旅行者周遊事業に係る)	4,327,380
		⑤	その他	753,706
令和 元年度	69,327,896	①	基本財産運用益	57,593,617
		②	国からの補助金 (訪日外国人旅行者周遊事業に係る)	5,887,290
		③	市町村負担金等 (訪日外国人旅行者周遊事業に係る)	4,011,537
		④	その他	1,835,452
令和 2 年度	75,437,556	①	基本財産運用益	64,922,022
		②	国からの補助金 (訪日外国人旅行者周遊事業、他に係る)	5,794,117
		③	市町村等負担金 (訪日外国人旅行者周遊事業に係る)	4,004,122
		④	その他	717,295
令和 3 年度 (見込み)	64,922,522	①	基本財産運用益	64,922,022
		②	その他	500
令和 4 年度 (見込み)	64,922,522	①	基本財産運用益	64,922,022
		②	その他	500

(別添) 様式 1

令和 5年度 (見込み)	64,922,522	①	基本財産運用益	64,922,022
		②	その他	500

## (別添) 様式 1

## (2) 支出

(単位:円)

年度	総支出		内 訳	金 額
平成 30 年度	83,962,111	①	(公益目的事業 1) 草原再生 PR 事業、野焼き支援事業、 阿蘇産品の振興、世界ブランド事業の推進	23,078,870
		②	(公益目的事業 2) 地域元気再生支援事業、情報発信と人材育成	15,156,592
		③	(公益目的事業 3) 新たな阿蘇資源の構築・推進、 広域連動型観光まちづくり事業	32,119,109
		④	一般管理費	13,607,540
令和 元年度	70,495,014	①	(公益目的事業 1) 草原再生 PR 事業、野焼き支援事業、 阿蘇産品の振興、世界ブランド事業の推進	20,028,734
		②	(公益目的事業 2) 地域元気再生支援事業、情報発信と人材育成	14,960,037
		③	(公益目的事業 3) 新たな阿蘇資源の構築・推進、 広域連動型観光まちづくり事業	23,623,628
		④	一般管理費	11,882,615
令和 2 年度	72,306,680	①	(公益目的事業 1) 草原再生 PR 事業、野焼き支援事業、 阿蘇産品の振興、世界ブランド事業の推進	21,360,604
		②	(公益目的事業 2) 地域元気再生支援事業、情報発信と人材育成	14,977,214
		③	(公益目的事業 3) 新たな阿蘇資源の構築・推進、 広域連動型観光まちづくり事業	23,861,626
		④	一般管理費	12,107,236
令和 3 年度 (見込み)	93,597,268	①	事業費	75,485,154
		②	一般管理費	18,112,114
令和 4 年度 (見込み)	93,597,268	①	事業費	75,485,154
		②	一般管理費	18,112,114

(別添) 様式 1

令和 5年度 (見込み)	93,597,268	①	事業費	75,485,154
		②	一般管理費	18,112,114

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

観光地域づくりプラットフォームである(公財)阿蘇地域振興デザインセンターは、平成14年に熊本県及び当時の阿蘇地域12町村による出捐金(30億円)を基本財産として、その運用で得た利金によって運営されている。また、阿蘇くじゅう観光圏を構成する現在の阿蘇地域(山都町を含む)8市町村以外の高千穂町及び竹田市からは事業に応じた負担を求めている。

## 8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

### 熊本県

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターは、その設立目的において「阿蘇」という資源を生かした観光地域の形成を掲げている。このため従来から、阿蘇くじゅう観光圏のブランド化、競争力強化に向け、阿蘇を中心とした市町村を巻き込みながら、広域的な取組みに関する関係者による検討協議を主導するほか、調査資料収集や情報発信などを行ってきた。

今後、当該法人が日本版DMOとして登録され、引き続き多様な関係者による密接な連携の中で取組みを進めることによって、当観光圏の更なる発展につながることを期待する。

### 阿蘇市

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターは、平成20年度から「阿蘇くじゅう観光圏」の観光地域づくりのプラットフォームとして観光ブランド確立に向けた取組みを進めており、既に当該地域における観光地域づくりのかじ取り役としての役割を担っている。今後、当該法人が日本版DMOを目指し、1次産業や2次産業と連携し、より地域素材を活かした経済の好循環が見込まれ、持続可能な地域づくりが期待できる。

### 南小国町

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを本町及び阿蘇くじゅう観光圏における地域連携DMOとして登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

### 小国町

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを本町及びマーケティング・マネジメント対象区域の地方公共団体における地域連携DMOとして登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

### 産山村

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを産山村及びマーケティング・マネジメント対象区域の地方公共団体における地域連携DMOとして登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

### 高森町

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを高森町における地域連携DMOとして登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

### 西原村

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを、本村及び熊本県阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、山都町、大分県竹田市、宮崎県高千穂町における地域連携DMOとして

(別添) 様式 1

登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

南阿蘇村

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを本村及び阿蘇くじゅう観光圏における地域連携DMOとして登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

山都町

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを山都町における地域連携DMOとして登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

竹田市

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを本町及び阿蘇くじゅう観光圏における地域連携DMOとして登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

宮崎県

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターでは、阿蘇くじゅう観光圏を核とした滞在型の広域的な観光地づくりに取り組まれており、宮崎県においても、西臼杵郡高千穂町がその観光圏に含まれ、県内有数の観光地として、阿蘇くじゅう観光圏と連携し、魅力ある観光地づくりに取り組んでいる。

多様な観光客のニーズに対応するためには、更なる観光資源の磨き上げに加え、商品開発のためのマーケティングや人材育成が不可欠であり、当該法人が日本版DMOとして登録されることにより、阿蘇くじゅう観光圏の広域的な取組の向上や連携強化が期待できる。

高千穂町

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターを高千穂町における地域連携DMOとして登録したいので、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターとともに申請します。

**9. マーケティング・マネジメント対象区域が他の地域連携DMOや地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）**

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

登録DMO 高千穂町観光協会は公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターと対象地域が重複している。エリアが重複している地域連携DMO 阿蘇地域振興デザインセンターとは「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」のメンバーとして年1回の総会で意見の交換をおこなっている。

2021年には3回の意見交換を行っている。

(別添) 様式 1

4月 5日 欧州向けリモートによるセールスプロモーション事業を提案 (高千穂町観光協会)  
4月 16日 高千穂町観光協会飯干会長を講師とする欧州向けリモートセールス事業を提案  
(高千穂町観光協会)  
5月 11日 欧州向けリモートセールスに関する連携事業会議 (zoom 会議)

【区域が重複する背景】

熊本県阿蘇地域を管轄する阿蘇地域振興デザインセンターと宮崎県西臼杵郡高千穂町を管轄する地域 DM0 高千穂観光協会が阿蘇くじゅう観光圏の構成メンバーとなっている。阿蘇くじゅう観光圏としてマーケティング・マネジメントをおこなっているため。

【重複区域における、それぞれの DM0 の役割分担について】

「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」は公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターないに事務局を置いている。地域 DM0 高千穂観光協会は独自の事業計画に沿ってマネジメント対象地域である高千穂町で経常的な活動を行う。地域連携 DM0 阿蘇地域 DM0 阿蘇地域振興デザインセンターは「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」で事業計画を示し、広域マップの作成や満足度調査などの事業を地域連携 DM0、各市町村と連携しながら行っている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議において、地域 DM0 との意見交換を行い、事業計画に反映し個別の事業を連携しながらおこなっていくことで効率的、効果的な活動の遂行が期待できる。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	興 梶 宏 幸
担当部署名 (役職)	事務局員
所在地	熊本県阿蘇市一の宮町宮地 4 6 0 7 - 1
電話番号 (直通)	0 9 6 7 - 2 2 - 4 8 0 1
F A X 番号	0 9 6 7 - 2 2 - 4 8 0 2
E - m a i l	kouroggi@asodc.or.jp

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	熊本県
担当者氏名	吉田 大介
担当部署名 (役職)	県北広域本部 阿蘇地域振興局 総務振興課 地域振興班 (参事)
所在地	熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2 4 0 2
電話番号 (直通)	0 9 6 7 - 2 2 - 3 9 0 3
F A X 番号	0 9 6 7 - 2 2 - 4 1 0 3
E - m a i l	yoshida-d-db@pref.kumamoto.lg.jp

都道府県・市町村名	熊本県 阿蘇市
担当者氏名	石松 昭信
担当部署名 (役職)	経済部観光課 (課長補佐)
所在地	熊本県阿蘇市一の宮町宮地 5 4 0 - 1
電話番号 (直通)	0 9 6 7 - 2 2 - 3 1 7 4
F A X 番号	0 9 6 7 - 2 2 - 4 5 6 6



## (別添) 様式 1

E-mail	akinobu-i@city.aso.lg.jp
--------	--------------------------

都道府県・市町村名	熊本県 南小国町
担当者氏名	河津 慶彦
担当部署名 (役職)	まちづくり課
所在地	熊本県阿蘇郡南小国町大字赤馬場 1 4 3
電話番号 (直通)	0 9 6 7 - 4 2 - 1 1 1 2
FAX番号	0 9 6 7 - 4 2 - 1 1 2 2
E-mail	Yoshihiko-k@town.minamioguni.lg.jp

都道府県・市町村名	熊本県 小国町
担当者氏名	笹原 正大
担当部署名 (役職)	情報課 商工観光係
所在地	熊本県阿蘇郡小国町宮原 1 5 6 7 - 1
電話番号 (直通)	0 9 6 7 - 4 6 - 2 1 1 3
FAX番号	0 9 6 7 - 4 6 - 2 3 6 8
E-mail	s_sasahara@town.kumamoto-oguni.lg.jp

都道府県・市町村名	熊本県 産山村
担当者氏名	長浜 光平
担当部署名 (役職)	企画振興課
所在地	熊本県阿蘇郡産山村山鹿 4 8 8 - 3
電話番号 (直通)	0 9 6 7 - 2 5 - 2 2 1 1
FAX番号	0 9 6 7 - 2 5 - 2 8 6 4
E-mail	Kohei-n@ubuyama-v.jp

都道府県・市町村名	熊本県 高森町
担当者氏名	馬原 孝平
担当部署名 (役職)	政策推進課 商工観光係
所在地	熊本県阿蘇郡高森町大字高森 2 1 6 8
電話番号 (直通)	0 9 6 7 - 6 2 - 1 1 1 1
FAX番号	0 9 6 7 - 6 2 - 1 1 7 4
E-mail	k-mahara@town.kumamoto-takamori.lg.jp

都道府県・市町村名	熊本県 西原村
担当者氏名	藤本 武都
担当部署名 (役職)	企画商工課
所在地	熊本県阿蘇郡西原村大字小森 3 2 5 9
電話番号 (直通)	0 9 6 - 2 7 9 - 3 1 1 2
FAX番号	0 9 6 - 2 7 9 - 3 5 0 6
E-mail	fujimoto-t@vill.nishihara.kumamoto.jp

都道府県・市町村名	熊本県 南阿蘇村
担当者氏名	本田 憲悟
担当部署名 (役職)	産業観光課 (係長)
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 1 7 0 5 - 1
電話番号 (直通)	0 9 6 7 - 6 7 - 1 1 1 2
FAX番号	0 9 6 7 - 6 7 - 2 0 7 3
E-mail	h-kengo@vill.minamiaso.lg.jp

都道府県・市町村名	熊本県 山都町
-----------	---------

## (別添) 様式 1

担当者氏名	山邊 剛
担当部署名 (役職)	山の都創造課 (係長)
所在地	熊本県上益城郡山都町浜町6
電話番号 (直通)	0967-72-1158
FAX番号	0967-72-1080
E-mail	yamabe.go@town.kumamoto-yamato.lg.jp

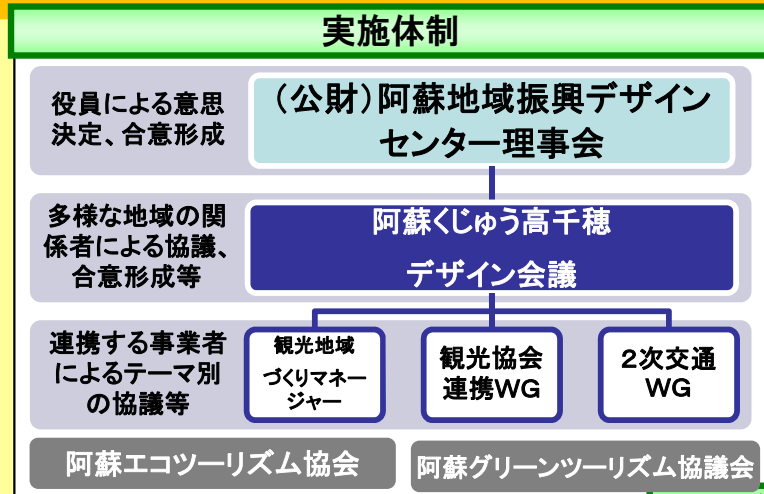
都道府県・市町村名	大分県 竹田市
担当者氏名	工藤 賢稔
担当部署名 (役職)	商工観光課 (課長補佐兼商工観光係長)
所在地	大分県竹田市大字会々2250-1
電話番号 (直通)	0974-63-4807
FAX番号	0974-63-0701
E-mail	yasutoshi-kudo@city.taketa.lg.jp

都道府県・市町村名	宮崎県 高千穂町
担当者氏名	藤本 圭司
担当部署名 (役職)	企画観光課 (係長)
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13
電話番号 (直通)	0982-73-1212
FAX番号	0982-73-1234
E-mail	kikaku@town-takachiho.jp

都道府県・市町村名	宮崎県 高千穂町観光協会
担当者氏名	有村 文明
担当部署名 (役職)	DMO推進課 (課長)
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井809-1
電話番号 (直通)	0982-73-1213
FAX番号	0982-73-1239
E-mail	arimura@takachiho-kanko.jp

法人名:公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター (阿蘇くじゅう観光圏「阿蘇カルデラ」命きらめく草原の王冠)  
 登録区分名:地域連携DMO

【区域】 熊本県阿蘇地域、上益城郡山都町  
 大分県竹田市、宮崎県西臼杵郡高千穂町  
 【設立日】 1990年5月30日  
 【登録日】 2018年3月30日  
 【代表者】 理事長 高橋 周二  
 【マーケティング責任者(CMO)】  
 江藤 訓重  
 【財務責任者(CFO)】  
 江藤 訓重  
 【職員数】 6人  
 (常勤7人(正職員2人、出向等3人、有期雇用2人))  
 【連携する主な事業者】  
 阿蘇市観光協会、南小国観光協会等



マーケティング・マネジメントする区域

【主な観光資源】  
 阿蘇山  
 黒川温泉  
 北里柴三郎記念館  
 池山水源  
 上色見熊野座神社  
 南阿蘇湧水群  
 俵山交流館萌の里  
 蘇陽峡  
 岡城  
 高千穂神社

合意形成の仕組み

【該当する登録要件】 (第20038号)  
 【概要】  
 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議で提案内容を協議し、デザインセンター幹事会、理事会の承認を経て、当DMOの最終合意とする。会議のメンバーは、行政、観光協会、観光業者、交通業者、商工会の代表で構成している。

法人のこれまでの活動実績

- 【情報発信・プロモーション】
- ・全国観光圏事業プロモーションへ参加
  - ・インバウンド対応動画作成YouTubeで公開
  - ・情報ポータルサイト「阿蘇ナビ」整備
  - ・HP、Facebook、インスタグラムの情報発信
- 【観光資源の磨き上げ】
- ・14のフットパスコースを整備
  - ・あそフラワーリズム(あそ花旅)を展開
  - ・阿蘇山上観光復興推進会議を開催
- 【受入環境の整備】
- ・阿蘇くじゅう観光圏Wi-Fiマップを制作
  - ・阿蘇くじゅう観光圏ツーリストマップを制作
  - ・阿蘇インフォメーションブックを多言語化
  - ・市町村WEBサイトの多言語化

戦略

【主なターゲット】  
 メインターゲット: 欧米豪の富裕層  
 サブターゲット1: 国内(首都圏及び関西圏)の40~60代女性  
 サブターゲット2: 国内(九州及び広島以西)の30~50代女性リピーター  
 サブターゲット3: 台湾、香港等、東アジアのファミリー層  
 【ターゲットの誘客に向けた取組方針】  
 阿蘇くじゅう観光圏満足度調査により、来訪者のニーズ、満足度を把握、分析しその結果に応じた事業をおこなう。  
 各種SNSによるきめ細やかな情報発信と全国観光圏推進協議会が行うインバウンド対応のプロモーション参加により誘客を図る。

観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

(「阿蘇カルデラ」命きらめく草原の王冠)を阿蘇くじゅう観光圏のコンセプトとして、すべてのコンテンツや広告を制作する場合には、このブランドイメージ基に制作している。

KPI(実績・目標) ※( )内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
旅行消費額(百万円)	目標	30,168 ( )	30,468 ( )	30,768 ( )	31,068 ( )	31,368 ( )
	実績	38,004 ( )	37,220 ( )	31,082 ( )	( )	( )
延べ宿泊者数(千人)	目標	2,312,000 (330,000)	2,474,000 (406,000)	2,647,000 (499,000)	2,832,000 (614,000)	3,030,000 (755,000)
	実績	2,013,997 (469,260)	1,888,114 (386,491)	( )	( )	( )
来訪者満足度(%)	目標	25 ( )	27 ( )	29 ( )	31 ( )	33 ( )
	実績	34 ( )	35 ( )	40 ( )	( )	( )
リピーター率(%)	目標	65 ( )	65 ( )	65 ( )	65 ( )	65 ( )
	実績	62 ( )	69 ( )	75 ( )	( )	( )

活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

【主な収入】 収益(基本財産運用益)  
 約75百万円  
 【総支出】 72百万円(一般管理費12百万円、事業費60百万円)  
 ※令和2年3月期決算  
 【自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】  
 安定した基本財産運用と、国庫補助事業に取り組み運営資金確保を図る。